

県うわ ちから

団体・業界の挑戦

身近な構造物に大量に使

用されるコンクリート。永
久素材との認識があるが、
経年変化による劣化が社会

問題化している。

「高度経済成長期に使わ
れたコンクリートの劣化が
表面化、診断ニーズは今後
ますます高まる」。県コン
クリート診断士会の石川裕
夏会長は組織化の理由をこ
う話す。

制度発足の発端は、一九
九九年に山陽新幹線で起き
たトンネル剥落事故。その
後、全国各地で高架橋のコン
クリート片剥落が相次ぎ、コ

ンクリートクラウジス」とま
でさきやかれた。診断の必
要性は急速に増していく。
社団法人日本コンクリー

ト工業協会（本部東京）の
診断士制度がスタートした
のは二〇〇一年。県内では
昨年三月、全国に先駆け県
単位の組織化を図った。発
足当時は十三人だったが現

在は生コン業者、ゼネコン、
設計コンサルタントなどが

受注分は推計百件程度（年

間）。

「設立当初は認知度は低
く低迷したが、官公庁の認
識は強まり、現在では会員

明、耐力・耐震の評価、補
修法を提案する。

「今はひび割れ、老朽化
してから診断するケースが
多いが、今後は予防的な点
検（診断）業務が中心とな
る」とみている。

従来のコンクリート関連
の資格は、新構造物に使う

設計・施工を主眼としてい
るに対し、診断士は既存

構造物のひび割れの原因解
いていた。

ラップ＆ビルトは後退。耐
久性をつけ維持する方向性
への転換もみられ、コンク
リート診断の追い風になつ

ていている。

「今はひび割れ、老朽化
してから診断するケースが
多いが、今後は予防的な点
検（診断）業務が中心とな
る」とみている。

会では研修事業を通じ、
コンクリート診断機器に触
れる機会を設けるほか、構
造物の診断手法に関するセ
ミナーを実施してきた。コ
ンクリート素材そのものも
に普及しようとしている。
行政側の建造物に対する
老朽化に伴い新築するスク
ラムは変化している。

重要性は増す。

技術も日進月歩。セミナーの
開催は県内では、〇三、クルの波が押し寄せた。

「診断する上では素材
を知らないとできない」と
会としても研修を進めてい
く考え。

▷県コンクリート診断士会

劣化予防へ存在感増す

設計コンサルタントなど
登録、二十四人に拡大した。

年から公共工事に使用する
コンクリート素材にリサイ
クルの波が押し寄せた。



研修で鉄筋探査機の使用法を学ぶ県コンクリート診断士会メンバー=昨年12月、若狭湾エネルギー研究センター